

《東京都》

令和元年度 全日本音楽教育研究会全国大会 東京大会(総合大会)
第62回東京都小学校音楽教育研究会研究大会

大会主題 「つなげよう 深めよう 生かそう ♪未来を拓く音楽の学び♪」
小学校部会研究主題 「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」

令和元年10月31日～11月1日に、令和元年度 全日本音楽教育研究会 全国大会 東京大会(総合大会)、全日音研発足50周年記念大会が開催された。大会主題「つなげよう 深めよう 生かそう ♪未来を拓く音楽の学び♪」のもと、これからの音楽教育の意義や役割について考え、他校種の先生方と交流しながら研究を進めてきた。小学校部会は、都小音研の特色の一つである各種研究会を中心とした研究発表を行うこととした。

1日目の小学校部会研究会では、7本の公開授業(管楽器、合奏、鑑賞指導、合唱、即興表現、音楽授業、指揮法)、5本の研究演奏(電子楽器、邦楽教育、指揮法、合唱、管楽器)、研究発表を行い、研究の成果を発表した。また、2日目の全体研究会では、《伝えよう 歌い継ごう 日本のうた》と題し、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒が、大学生のオーケストラ伴奏にのせて、歌い継いでいきたい日本の歌を歌い上げた。

1. 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領(平成29年告示)では、音楽科の目標に、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせて、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することが示された。

様々な音楽活動を通して、児童は音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて考えられるようになる。そして、音楽を自己のイメージや感情と関連付けながら味わって聴いたり、自分の思いや意図をもって表現したりすることで、音楽により一層、親しむよう

になる。さらに、自分の学んだことと生活や社会の中の音楽を関連付け、生活や社会の中の音楽の役割を考えられるようになる。このような知性と感性を働かせる学習過程を通して、「音楽は自分にとって大切な存在」「音楽を学んだことが生活に役立つ」という実感をもてるようにすることが求められている。

一方、学校の音楽教育では、他者と協働しながら音楽活動する喜びを味わうことも重要である。友達と協働しながら音楽表現を生み出す楽しさは一人では味わえない格別なものであり、友達、先生、地域の方や専門家等との交流を通して新しい考えに触れ、感じ取ったことを共有して自分の考えを広げ、学びを深めていくことができる。他者と協働して音楽をつくり上げることは、生活や社会で生きて働く力につながるのである。

以上から、次の児童像を目指した。

- 音楽的な見方・考え方を働かせて、主体的・対話的に音楽活動に取り組む子
- 他者と協働する中で自分の考えを深め、共に音楽活動をする喜びを味わう子
- 音楽が自分の生活を豊かにすることに気付く、自ら音楽に親しもうとする子

都小音研のこれまでの研究の成果と新学習指導要領が示す内容を踏まえ、音楽的な見方・考え方を働かせながら、自分の思いや意図を表現するために必要な知識や技能を習得し活用する学習、聴き取り感じ取ったことを友達や教職員、地域の方や専門家等と交流しながら学びを深める学習を、さらに充実させていきたい。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことにより、児童が生活や社会との関わりの中で音や音楽が果たす役割に気付く、音楽の授業で学んだ

ことを生活に生かそうとする姿を目指す研究を進めていきたい。

児童が自ら「自分と音楽とのつながりを深めよう」「音楽で様々な人とつながろう」「音楽の学びを生活に生かそう」と主体的・対話的に学び、学びの深まりを実感し、音楽活動をする喜びを味わってほしいとの願いをこめ、**研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」**を設定した。

2. 研究の内容

本研究では、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成を目指し、音楽的な見方・考え方を働かせた、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。そのために、次の三つの研究の視点を設定した。

視点1 学びを深め生かす主体的な学習の実現

教材研究や題材構成をもとに、児童が必要感を持ち、知識や技能を得たり生かしたりしながら、自分の思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする学習過程を工夫することで、より主体的な学習を実現する。

◇**題材構成**：児童が聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせながら学びを深められるように、〔共通事項〕に着目して学習内容を焦点化し、児童の思考の流れを想定した題材構成を工夫する。

◇**教材研究**：児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にしながら教材研究を行う。その際、音楽を形づくっている要素同士の関連、要素と音楽の特徴とのつながり、曲想と音楽の構造などとの関わり等、関わりに着目した楽曲分析を手掛かりとする。また、「音や音楽と生活や社会との関わり」という観点からも教材研究を行うようにする。

◇**学習過程**：学習過程に、学習の見通しをもつ場面、思いや意図を表現するために必要となる知識や技能を習得し活用する場面、学びを振り返り変容を自覚できる場面等を

設定し、児童が自らの学習を調整しながら粘り強く学ぶことができるようにする。

その際、児童が音楽活動を通し、実感を伴って知識を更新し、表現や鑑賞を深めていくことができるように「比較する」「関連付ける」「言葉や体の動きなどで表す」等の学習活動を工夫する。

視点2 学びをつなぎ深める対話的な学習の充実

対話的な学習を通して他者の考えや思いに触れることで、児童が自分の感じ方や考え方を広げ、音楽表現や鑑賞の学習を深められるように、次の手だてを工夫する。

◇**対話的な学習**：児童同士で伝え合ったり、教職員、地域の方や専門家等と交流したり、先哲の考え方を手掛かりとしたりする等、対話的な学習を学習過程に取り入れる。その際、学習の目的と方法を明らかにすることで、児童が見通しをもって活動し、学習を深められるようにする。

◇**音楽科の特質に応じた言語活動**：児童が音楽の中に理由や根拠を見だし、見方・考え方を働かせて交流できるように、「比較する」「関連付ける」「言葉や体の動きなどで表す」等を取り入れ、音楽科の特質に応じた言語活動を工夫する。

授業の実際では、音や音楽で試したり合わせたり、聴き取り感じ取ったことを聴いて確かめたりする等、音楽活動と関連を図るようにする。

◇**生活に生かす学習**：音楽の授業、地域の方や専門家との交流を通じた学習の成果を、学校生活及び幼小中連携校や地域にある施設等との交流に生かす。

視点3 深い学びを支える指導と評価の工夫

主体的・対話的で深い学びを支える教師の働き掛けや児童の学びを見取る評価を次のように行う。

◇**教師の働き掛けや関わり方**：学びの方向性を示す発問を精選し、児童の思いや考えを引き出す教師の言葉掛けや働き掛け、児童

の表現，発言，行動のよさを見取り，学びを深めていけるような教師の関わり方を工夫する。また，児童の学びが生活や社会の中の音や音楽とどのようにつながっているか，教師が価値付ける言葉掛けを工夫する。

◇**指導と評価**：授業設計時に「学びが深まった児童の具体的な姿」「努力を要する状況への手だて」を想定し，学習指導案に記載することで，一人一人の児童の状況に対応し，見通しをもった指導と評価を行うようにする。

◇**年間指導計画と評価計画の作成**：小学校6年間の見通しをもち，児童の実態や発達段階に応じた学習が進められるような年間指導計画及び評価計画を作成する。作成にあたっては新学習指導要領の全面实施を見据え，題材の指導計画では「知識及び技能の習得」「思考力，判断力，表現力等の育成」「学びに向かう力，人間性等の涵養」の資質・能力の三つの柱による目標を設定する。また，「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準の設定について研究を進める。現行の4観点の評価については，大会一日目配布の資料に記した。

視点1の教材研究，**視点2**の対話的な学習，**視点3**の教師の価値付け等を通して，児童が音楽の授業で学んでいることを自覚し，それが生活や社会とどのように関わり，どのような意味があるのか，意識できるようにしていきたい。

3. 研究の成果

研究の視点に基づき，それぞれの授業内容に沿って指導の手だてを工夫することで，次のような成果を得ることができた。

○**視点1** 教材研究を深め，児童の実態に即した教材を選択することで，児童が友達と協働しながら，思いや意図をもって表現をつくり上げようとする姿が見られた。ま

た，授業の特性を生かした学習過程を工夫することで，児童が見通しをもって主体的に学習に取り組み，ねらいを達成することができるようになった。

○**視点2** 音楽科の特質に応じた言語活動を工夫し，対話的な学習を学習過程に取り入れることで，協働して音楽表現をつくり味わって聴いたりすることのよさや喜びを実感できるようになった。他者との交流を通して音楽的な見方・考え方を広げる姿，音楽への思いを深め，自分と関わりのある人たちへ音楽で思いを伝えようと主体的に取り組む姿も見られた。

○**視点3** 発問，言葉掛け，価値付けなどを工夫し，全体で共有することで，児童自らが学んだことを実感し，達成感をもてるようになった。ワークシートへの記述内容や相互評価の発言内容を評価に活用することで，児童の思考・判断・表現を見取り，次の学習につなげることができた。

また，資質・能力の三つの柱による目標や3観点による評価規準を設定することで，各時間にどのような資質・能力を身に付けるかを明確にしながらい題材の指導計画や年間指導計画を作成することができた。

4. 今後の課題

主体的・対話的で深い学びの実現を図るために，「思考力・判断力・表現力等」の指導事項に示された「知識や技能を得たり生かしたりしながら」の目指すところを更に追究し，児童が音楽的な深まりを実感できるように，引き続き研究を進めたい。また，「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方についても検討していきたい。

そして，児童の発達段階に応じた「生活や社会の中の音や音楽と関わる学習」について研究し，中学校の学習へのつながりを考えていきたい。